

会 議 録

会 議 の 名 称	平成20年度第1回水道運営委員会
開 催 日 時	平成20年8月26日 午後 2時10分から 午後 3時30分まで
開 催 場 所	水道課別棟会議室
出席委員（者）氏名	番場鉄康（会長）、宮崎利彦、遠藤義法、沖 敬子、 小野寺よし子、立澤利夫、中村光一
欠席委員（者）氏名	宮田裕子
担当課職員職氏名	市 長 戸張胤茂 水道課長 森田昌明 課長補佐 石綿 昭 庶務係長 高鹿 正、料金係長 山崎孝男 施設係長 白井 正、 庶務係主任 中野 勝、大滝利和
会 議 次 第 及 び 会 議 の 公 開 非 公 開 の 別	1 開会 2 あいさつ 3 議題 （1）平成19年度吉川市水道事業会計決算報告について （2）その他 4 閉会 以上すべて公開
非 公 開 の 理 由 （会議を非公開とした 場合）	
傍 聴 者 の 数	0人
会 議 資 料 の 名 称	1 平成19年度 吉川市水道事業会計決算書 2 平成19年度吉川市水道会計決算状況について 3 視察研修について
会 議 録 の 作 成 方 法	<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会 議 録 確 認 指 定 者	小野寺よし子 立澤利夫
そ の 他 の 必 要 事 項	

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、決定事項等）	
司会者 （課長補佐）	開会
市長あいさつ	「目的である安全でおいしい水を市民の各家庭に届ける」これを使命として、取り組んでまいりたい。本日、よろしく申し上げます。
会長あいさつ	本日は、前回に引き続きの件と議題2項目ありますので、みなさまのご協力をお願いしたい。
会長	前回に引き続きの件「第5期拡張の概要について」事務局申し上げます。
事務局 （課長補佐）	遠藤委員の質問にお答えします。 第5期拡張事業は、事業認可の拡張に伴い、平成6～12年度の7年間の事業である。主な事業は、新たに建設した南配水場や基幹配水管の石綿管の布設替事業などである。配水管路の整備実績については、7年間で計画した整備延長24,225m、整備事業費37億1,500万円に対し、整備延長39,768mで整備事業費35億6,600万円の管路の整備を行い、市内の給水不足箇所を給水を図りました。 主な整備箇所は、南配水場から吉川駅みなみ地区に給水する基幹管路のφ500mmの整備、会野谷浄水場を結ぶ管路整備、市街化調整区域の石綿管の整備である。
会長	それでは、議題に従って進めていきたい。 「(1)平成19年度吉川市水道事業会計決算報告について」
事務局 （課長）	説明（資料「平成19年度吉川市水道会計決算状況について」を読み上げて説明する。）
会長	質問があれば、お受けしたい。
遠藤委員	以下3点の質問 ①近隣市町では「逆ざや」になっていない。構成をみると、減価償却の比率が高い。設備投資の要因について教えてもらいたい。 ②前回に引き続きの件の回答で、整備延長が計画よりも1.5km長く、費用は、1億5千万円下がっている。この辺の説明を教えてもらいたい。 ③平成19年度は布設替を2億2千万円で9箇所4,522m行っていた。今後、市街化の布設替えとなる。メータ当りの費用は、どのくらいかかるものか
事務局 （高鹿係長）	決算書P16ウ「費用構成分析」で減価償却費は、62.36円となっている。その内訳は、P22の固定資産明細書の構築物の費用が大きい状況にある。石綿管の耐用年数が40年であるため、今後、石綿管の更新が進むにつれ、減価償却の費用も増えていく状況にある。
事務局 （白井係長）	布設替えの単価については、歩掛、厚生労働省からの積算基準で設計している。だいたい単価ですが、口径100mmの管で1メートルあたり、6～9万である。取出しの数によって変わってきます。
事務局 （課長補佐）	第5期拡張事業の差額は、請負差金がある。 入札すると予定価格をするため

遠藤議員	<p>越谷・松伏と比べると、すでに越谷・松伏は石綿管の更新が済んでいて、吉川はこれからの更新が残る中、減価償却費の占める割合が高い。</p> <p>構成比率で比較すると、吉川は37.5%、越谷24.3%、草加17.1% 過大投資ではなかったのか。今度の計画ではどのように考えているのか</p>
宮崎委員	<p>南配水場の建設計画当時、人口増加などを見誤って、結果的に過剰な設備投資をしてしまったのではないか。その辺の説明をお願いしたい。</p>
事務局 (課長補佐)	<p>第5期拡張は、計画給水人口67,000人、1人1日最大給水量は5390 1日最大給水量は36,100m³で事業認可を受けております。事業認可は平成5年度末に受けているので、直近2年の水量で事業認可を受けています。通常一般家庭では、節水型も進み2400程度の使用水量で推移している状況である。</p>
遠藤議員	<p>計画よりも1万1千トンも違いがある。節水が進んだとしても、計算が合わない。配水の見通しが誤ったのではないか。要因はどの辺にあるのか</p>
事務局 (課長)	<p>古い資料からみると、平成5年度当時1日最大給水量は24,059tで、当時の吉川の配水能力が実質的に36,100tあった。その数字を維持した計画を立てたのではないかと推測する。今現在36,100tの計画できていますが、今現在の能力は、21,900tの状況である。当時としては、人口の伸びと出ている給水量で事業認可を受けたものと推測する。</p>
遠藤委員	<p>実際の状況と計画とでは、相当の開きがある。その差はどうなっているのか。計画人口のとおり行っていれば、そんなに違いがでなかったはずではないか。途中で計画変更が必要ではなかったのか</p>
宮崎委員	<p>現在の人口は65,000人、計画人口は67,000人で、それほど見込とはずれているわけではないが、家庭用や事業用と一緒にしている中、使用水量が増えていない。どこかで見直すことができなかったのか。</p>
事務局 (白井係長)	<p>事業認可変更については、あくまでも需要の大きさになるわけで、枠を超えなければ、事業認可変更は問題ない。言われるとおり、認可変更とは別に、計画の見直し等はするべきだったのかもしれない。</p>
宮崎委員	<p>1人あたりの使用水量が極端にずれている。</p> <p>途中でどこかで、見極める必要があったのでは別のですが、軽トラックの買い替えについては、故障ですか</p>
事務局 (高鹿係長)	<p>平成7年式のもので、修理しながら、使用していた。</p> <p>買い替えをすることにした。</p>
宮崎委員	<p>P7の職員研修について、どのようなことを行ったのか</p> <p>経営健全化計画の業務委託で、これからどの程度成果が得られるのか聞きたい。</p>

<p>事務局 (高鹿係長)</p>	<p>研修会については、日本水道協会の参加が多い。新任水道事業管理者研修会、配管設計講習会、石綿管作業技能講習会などへの参加である。</p> <p>健全化計画については、皆様に配布した概要版を作ったものである。1000万円の予算であったが、入札をした結果500万円程度の費用となった。吉川では平成15年度にプラン21の計画を行ってきました。その計画では、松伏との合併の話で、入っていない部分もありましたので、今回の健全化計画に含めて計画した。プラン21の計画ですと平成25年度までですが、今回の計画は平成35年度までの計画を策定した。</p> <p>給水人口から水がどのくらい必要なのか計算し、施設はどのようにあるべきか、配管網はどのようにしていけば合理的になるか、それを裏付ける財政のほうを検討している。我々、職員ではできるものではなかった。500万円以上の効果ができていたのかについては、15年間先を見据えたことなので、職員の人件費を考えれば、効果があったものと考えます。</p>
<p>遠藤委員</p>	<p>35年までの計画で、財源については、分担金を収益的収支に入れるか、料金改定が記載されているだけで、500万円がいいのか疑問である。概要版に入っていないくて、中身に入っているのか。500万円の価値があるものなのか</p>
<p>事務局 (高鹿係長)</p>	<p>計画書には、細かく計算をしているもので、毎年の歳入歳出がどうなっていくか試算してあります。一時的に数年間、赤字になるものの持ちこたえていくだろうと予測しています。また、県水を87%買っていますが、県水の値上がりを考えると料金改定も視野に入れないといけないとまとめてあります。</p>
<p>市長</p>	<p>減価償却費の話になっていますが、越谷・松伏は、人口35・6万人、面積は（人口当たりの面積が吉川市と比べて）小さいです。そのへんところで、効率が落ちているように感じている。最小の投資で最大の効果をあげることが当然の話ではあるが、ある面では、安全でおいしい水を十分、アクシデントの中で給水できるように体制づくりも責任として必要ではないか</p> <p>駅南の事業認可は平成元年です。20年経過していますが、まだ、全部使用していない状況で、5期拡張の時から見ると、差が大きく出てしまったと思います。</p> <p>松伏との合併の話が出た際、水道については、越谷・松伏企業団との合併の話も、水面下ではありましたが、合併の話がなくなると、なくなりました。</p> <p>現在、広域化に向けての話も消防や水道でも5市1町の東南部会議の中の広域化や越谷・松伏企業団との合併についても模索している。</p> <p>三十数kmの市街地の石綿管の更新、当時、石綿管を使用すること自体間違いだったと思います。</p> <p>節水は環境には良いもので進めていかなければならないものですが、水道事業からすると相反するところではあるが、経営努力していかなければならない。</p>
<p>遠藤委員</p>	<p>大きいばかりが良いものではない。 吉川の場合、半分ちょっとと稼働率が悪い。 人口が増えて稼働率がどこまであがるか。</p>

事務局 (課長)	施設能力は21,900tですが、計算上は認可の36,100tで計算しますので、どうしても稼働率はそのような数字となってしまいます。
遠藤委員	職員の人数や経費については、吉川市はよくやっている。 35年までの計画があるので
宮崎委員	途中途中で計画の見直しもするんですよね
事務局 (課長)	社会情勢が変わってくれば、見直しも必要になってくる。
市長	水道料金を上げないでやっていければ良いが、県水も高度浄水処理で、費用単価も上昇すると、厳しい状況になってくる。安全で安心なおいしい水を供給するにあたっては、負担も生じてしまう。
会長	「議題のその他」何か委員の方でありますか ありませんので、事務局からお願いします。
事務局 (高鹿係長)	視察研修について 新三郷浄水場の施設見学を10月15日の日程で計画しています。 よろしくお願いします。
	(閉会)
<p>以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。</p> <p>平成20年10月15日</p> <p>署名委員 (小野寺 よし子 自署) 署名委員 (立澤 利夫 自署)</p>	